

古事類苑

人部十九

信

名稱

信ハ、マヨト、云フ、誠實ノ義ニシテ、人ニ對シテ偽ハラズ、人ト約シテ違ヘザルガ如キ即チ是ナリ、

〔類聚名義抄五〕信_言音迅

〔段注說文解字三上〕信誠也、釋詁、誠从人言、序說會意曰、信武是也、人言則無不_レ信者、故

〔釋名四〕言語、信申也、言以相申束使不相違也、

〔伊呂波字類抄志人事〕信_忠、_信

〔和字正濫抄序〕日本紀中訓言語等字云末古登、末者眞也、美言之詞、猶木云眞木、玉云眞玉之類、古登者與事字訓義並通、蓋至理具事翼輪相雙、有事必有言、有言必有事、故古事記等常多通用、於心無僞曰末古。古。呂。於言無僞曰末古登、信以串五常、信誠也、準人言爲信、誠亦言成、製字者不从心从言、訓字者不言末古。古。呂。言末古登、因心之慤實全在言中取信於外、

〔倭訓栢未編二十九〕まこと、誠、信、眞、情、孚、實の類をよめり、眞言也、言事也、眞誠とも連用す、詩語の眞成も同じ、俗語の眞正も音轉なり、實は通じて寔に作る、虛の反對也、眞は僞の反對也、情知の語詩に多し、新撰字鏡に譜もよめり、大學の苟日新の苟は眞也と注す、良諒をまことにとよむも同じ、固をよむはあし、といへど、神代紀より見えたる、允も信也と注し、亶も信也と見ゆ、